

令和5年度

事業計画

社会福祉法人 幸生福祉会

理 念

人と人との出会い、心の交流をとおして生きがいを見つけ、活力ある日々をその人らしい生き方で、安心して共に暮らせる笑顔が溢れる施設を目指す。

基 本 方 針

社会情勢の傾向を見極め、時代の流れに適応した新たな楽しみや生きがいをもって、生活が送れる楽園として努め、利用者に寄り添った笑顔が絶えない環境を大切に、限られた時間の中で工夫を凝らし、人々がお互いに支え合う姿に生きがいを感じる希望の空間を確保する。

事 業 計 画

(1) 経営基盤

高齢者の特性に配慮した地域における活動拠点として、介護サービスの提供を主体とした経営を軸に、中長期的な計画も視野に入れ、社会貢献を意識した安定した財源を確保する。

(2) 事業運営

行政改革や介護保険制度改革による時代の流れに適応した事業運営を主体に、利用者の視点を取り入れた質の高いサービスを提供し、利用者が有する能力に応じた日常生活が営める環境を整備し、心身共に安心して生きがいを感じ、明るく楽しめる活動を支援する。

(3) 設備管理

経年劣化や老朽化により、建物や設備の故障で更新が必要な部分については、業務に支障をきたさないよう日頃から点検を行い、将来を見据えた総合的な判断を踏まえ、業務の効率化を図る機器等への更新を実施し、臨機応変に対応できる業者との連携を図り管理する。

(4) 人材育成

人手不足という問題やコロナの影響もあり、新規採用が難しい状況の中、当施設の平均勤続年数は約11.4年と定着しており、近年の職員定着率は良いが平均年齢は47.7歳と上昇傾向になっている事もあり、施設内研修や勉強会を定期的実施し、現場で臨機応変に対応できる自己啓発を促し、各種の全体会議にて次世代の能力開発に取り組んでいく。

(5) 地域活動

住み慣れた場所で、高齢者がいつまでも安心して暮らせる地域社会を考え、地域における社会資源やインフォーマルサービス等の活用を促し、地域の高齢者のニーズに沿った独自サービスが展開されるよう関係機関と連携を図り、未来の高齢者社会に向けた活動をする。

特別養護老人ホーム 九十九園（介護老人福祉施設）

ショートステイ九十九園（短期入所生活介護）

- 1 利用定員 特別養護老人ホーム 50 名
ショートステイ 10 名
- 2 職員定数 40 名 施設長、生活相談員、介護職員、看護職員、
介護支援専門員、管理栄養士、医師（嘱託）
- 3 事業運営
 - (1) 利用者に必要な日常生活支援や健康管理及び機能訓練等を行う事により利用者が有する能力に応じて自立した日常生活が営めるよう、介護職員を中心に多職種間の連携を図り、利用者主体を考えた支援に努める。
 - (2) 住み慣れた在宅での生活が続けられるよう、利用者の生活習慣を大切に、心身共に快適な生活の場として過ごせる環境を整備して提供する。
- 4 基本計画
 - (1) 今できる活動を考え、限られた時間の中でも工夫を凝らして、施設生活での楽しみを持てる生活を継続した形で、新たな取り組みを交えた支援をする。
 - (2) 利用者と個別で関わる時間を大切に多職種間での連携を図り、利用者にとりを持った支援ができる環境に整備し、楽しめる日常の余暇活動を提供する。
- 5 基本姿勢
 - (1) 状況に応じた業務改善等をスムーズに実施し、利用者にとって居心地の良い安全で安楽な支援を提供する。
 - (2) 各会議での決定事項はミーティング等を通じて情報共有を行い、多職種間での連携を密に深め、利用者への丁寧な接遇を大切にされた支援を行う。
- 6 資質向上
 - ① 職員として丁寧な接遇が行えるよう、OJTの活用や技術面だけでなく施設内研修への参加や勉強会等での学びを通じて物事を考え、振り返る機会を定期的に作る事で、個々の技術や知識の向上を図り、安全で安楽な生活を支援する。
 - ② 担当職員だけではなく、全体で物事に取り組む意識を持ち、業務として個別に関わる時間等を捻出し、満遍なく利用者に関われる環境を作ることで、職員間での意識の差を無くし、利用者に楽しみの時間を還元していく。
 - ③ 嗜好や生活習慣、既往歴なども含めた情報共有を多職種間で行い、嘱託医や歯科医とも連携しながら、口腔内や嚥下状態の観察を行い、安全に美味しく食べられる食事内容を考えて提供していく。
 - ④ レクリエーション等の内容が、マンネリ化しないように検討する機会を多職種間でもち、職員の意識を高めて継続性のある楽しみの時間を提供する。

ケアハウス九十九園（軽費老人ホーム）

- 1 利用定員 30 名
- 2 職員定数 4 名 施設長、生活相談員、介護職員
- 3 事業運営
高齢者の特性に配慮した住みよい日常生活に必要な住居を提供し、談話スペースを設けた場所での交流を通して、利用者が安心して明るく楽しむ自立した生活が営めるように支援する。
- 4 基本計画
自立支援を念頭に、日々の状態観察や把握に努め、入居者自身が自信をもって生活できるように、介護サービスの利用を含めた支援を行っていく。
- 5 基本姿勢
入居者との日々の関わりや様子などを通じて、入居者同士の関係性を把握し、トラブルに発展しないように助言を行い、未然に防げるように支援する。
- 6 資質向上
 - ① 入居者の話に傾聴して理解に努め、精神面の不安を無くすように努める。
 - ② 状態変化に伴う介護サービスの提案をはじめ、他職種や家族との連携を図り、日常生活の維持向上に努めていく。

デイサービスセンター 九十九園（通所介護）

- 1 利用定員 50 名
- 2 職員定数 17 名 管理者、生活相談員、介護職員、看護職員
- 3 事業運営
在宅の高齢者に対し、通所することにより各種の介護サービスを提供することで生活の維持や自立を助長して、社会的孤立感の解消を図る。
- 4 基本計画
基本的なサービスを軸に、利用者のニーズに応じた流れを保ちながら、可能な事はできる範囲で取り組み、レクリエーションや行事を通じて他者との交流を促し、利用者が安全に安心して過ごせるサービスを提供する。
- 5 基本姿勢
日々の情報収集から、他者との交流が促進されるような座席や環境に変化を加える事で、少しでも多くの利用者と楽しみ関われる時間を作り、ミーティング等での反省や改善を繰り返すことで、サービスの充実を図っていく。
- 6 資質向上
 - ① 介護の基礎部分の見直しや再確認を繰り返し、職員全体の介護技術の底上げを図り、優先順位を考えた行動を念頭に、事故防止に繋げていく。
 - ② 日常業務の中でも介護の知識を学び、日々の指導や勉強会や研修等を通じてレベルアップを図り、業務における個々の役割や意味を理解し、考えて行動できる習慣をつける人材教育をしていく。

九十九園 京田辺市居宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
要介護者の意思を尊重し、介護度や生活環境に応じて介護計画を作成し、介護サービス事業者を紹介したり、サービス提供に関し連絡や調整を行う。
- 3 基本計画
重度化が進む事により、家族の負担やストレスが増える中、いかにして本人の状態に合わせたサービス調整が、スムーズに移行できるかを考えて支援する。
- 4 基本姿勢
関係機関やインフォーマルサービスの情報を職員間で共有し、利用者に寄り添ったサービス提供を考え、自宅での生活が続けられるように支援を行う。
- 5 資質向上
 - ① 近隣の事業所の空き情報等を把握し、感染症等の問題から一時的に事業所が閉鎖した場合でも、必要に応じて臨機応変に対応できる体制にしていく。
 - ② 地域ケア会議や他事業所との連携を密に図り、職員会議等での情報を共有し、安心して在宅生活を送れるように支援を行う。

在宅介護支援センター九十九園（窓口相談事業所）

- 1 職員定数 4名 管理者、介護支援専門員
- 2 事業運営
京田辺市からの委託を受け、在宅生活をされている高齢者の相談や地域の福祉サービスの提案や支援を行う窓口相談所として活動する。
- 3 基本計画
利用者の心身の状況を踏まえた在宅サービスの紹介や相談援助などの支援を行い、いつまでも自分らしい在宅生活が続けられるような援助に努める。
- 3 基本姿勢
介護保険制度に対して、家族や利用者の理解が乏しい部分について、迅速で丁寧な対応を図り、在宅生活を支える地域福祉サービスの提案を行う。
- 4 資質向上
 - ① 地域包括支援センターとの連携を図り、介護保険の申請手続きや介護保険外の地域資源を活用したサービス等の支援を行う。
 - ② ミーティング等により情報を共有し、利用者が安心して生活できる援助を行う。

ヘルパーステーション 九十九園（訪問介護）

- 1 職員定数 4名 管理者、サービス提供責任者、訪問介護員
- 2 事業運営
利用者が出来る限り、在宅で安心して自立した日常生活が送れるよう、日々の状態変化を把握し、サービス提供が行えるように努める。
- 3 基本計画
常に新しい意見を発信し合い、最新の情報を共有することで利用者の状態を把握し、不測の事態が生じた時にも対応できる知識や技術を共有する。
- 4 基本姿勢
日常業務におけるサービスの特性と形態を理解して、利用者の特徴に応じた様々なケースに対応できるよう、専門職としての責任を持って行動をする。
- 5 資質向上
 - ① 訪問介護の持つ専門性や価値、機能などの理解を深める為に自身で学習する習慣をつけ、職員一人ひとりのスキルアップを図る。
 - ② 日々更新される情報や積極的に意見できる場を設け、最新情報を密にして共有することで、各自がゆとりを持って臨機応変に対応できるように努める。

本部

- 1 職員定数 4名 施設長、事務職員
- 2 事業運営
社会情勢の傾向を見極め、行政改革や介護保険制度改正による規程やマニュアル等の改訂を迅速に対応し、適正な事業運営に努める。
- 3 基本計画
経年劣化や老朽化により、建物や設備の故障や更新が必要な部分については業務の効率化を図る機器等への更新を実施し、中長期的な経営の安定を図る。
- 4 基本姿勢
業務に支障を来さないよう日頃から伝達や確認を行い、どんな業務でも意味を理解した上で連携を図り、イレギュラーな内容でも考えて対応できるようにする。
- 5 資質向上
 - ① 基本的な事をしっかり押さえて職員間で常に情報共有を行い、例外にも対応できる力を身に付け、業務に支障を来さないように努める。
 - ② インターネットの活用や関係機関との連携を図り、小さな情報でも早く掴めるように視野を広げて情報収集に努め、臨機応変に対応できる応用力を身につける。

令和5年度事業方針

部署	現状と課題	新年度方針	取組
<p>特養</p> <p>ショート</p>	<p>① 業務を優先してしまう傾向があり、利用者に対しての言動や対応について丁寧さにかける場面も見られ、利用者にとって安全、安楽な援助が疎かになってきている場面がある。</p> <p>② 利用者の重度化や職員の体制等で以前のようなレクリエーションの実施が難しくなっており、利用者にとっての楽しみの時間の還元が出来ておらず、内容もマンネリ化しており、取り組みについても職員間での意識や技術の差がある。</p> <p>③ 加齢や既往歴に伴う摂食嚥下機能の低下が見られ、そのことによって食思の低下や低栄養に繋がるケースが増えてきている。</p>	<p>① 状況に応じた業務改善等をスムーズに実施し、利用者にとって居心地の良い安全で安楽な支援を提供する。</p> <p>② 今できる活動を考え、限られた時間の中でも工夫を凝らして、施設生活での楽しみを持てる生活を支援する。</p> <p>③ 医師や歯科医とも連携しながら、口腔内や嚥下状態の観察を行い、安全に美味しく食べれる食事内容を考え提供していく。</p>	<p>① 施設職員として丁寧な接遇が行えるよう、OJTの活用や技術面だけでなく、施設内研修への参加や勉強会等での学びを通じて物事を考え、振り返る機会を定期的に作る事で、職員の技術や知識の向上を図り、安全で安楽な生活を支援する。又、状況に応じて業務内容を見直し、介護職員だけでなく看護職等を含めた多職種間での連携を図り、ゆとりを持って利用者へ支援ができる環境を整備していく。</p> <p>② 起案や計画等については担当職員だけでなく全体で検討する。物事に取り組む意識を持ち、業務として個別の関わりの時間等を捻出し、満遍なく利用者に関われる環境を作ることで、職員間での意識の差を無くし、利用者に楽しみの時間を還元していく。</p> <p>③ 食思不信の際には多職種間だけでなく、家族との連携を図り最期まで穏やかに過ごせる支援を行っていく。</p>
<p>ケア</p>	<p>① 入居者個人の思い込みによる勝手な理解や判断などから、お互いの内容が相違し、トラブルになる事がある。</p> <p>② 高齢に伴うADL低下や、認知面による理解力の低下が著しく、QOLの低下や精神面の不安定があり、生活に支障を来す事がある。</p>	<p>① 入居者の話に傾聴して理解に努め、平等に対応出来るようにする。</p> <p>② 自立支援を念頭に、日々の状態観察や把握に努め、入居者自身が自信をもって生活できるように、介護サービスの利用を含めた支援をしていく。</p>	<p>① 日々の関わりや様子などを通じ、入居者同士の関係性などを把握して、トラブルに発展しないよう、未然に防げるように努める。</p> <p>② 状態変化に伴う介護サービスの提案や他職種、家族との連携を図り生活の維持向上に努めていく。</p>
<p>デイ</p>	<p>① 「身体の活動」や「頭の活動」を一日の流れに取り入れ、全体を通してメリハリのあるサービスの提供ができるようになっているが、現状の流れを維持しつつ職員の人員不足等も踏まえた上で不要な業務を整理し、サービスの質や満足度を下げないよう工夫を凝らして行く必要がある。</p> <p>② 重大な介護事故なく経過することができたのは、職員の人員に関係なく危険認識を高め、職員間の声掛けや連携が安定的に図られるようになった結果だと言えるが、人員不足になると業務優先的な考えになる傾向があるので、安全面に配慮した優先順位を付けて対応する習慣を徹底していく必要がある。又、介護技術面においてはまだまだ学ぶ点も多く、苦手意識のある業務にも積極的に取り組み、介護技術の基礎や知識を増やして、明確な根拠ある介護ができる職員を育成する必要がある。</p>	<p>① 無駄な業務を省いた基本的なサービスを軸に、利用者のニーズに応じた流れを保ちながら、可能な事はできる範囲で取り組み、レクリエーションや行事を通じて他者との交流を促していく。</p> <p>② 介護の基礎部分の見直しや再確認を繰り返し、職員全体の介護技術の底上げを図り、優先順位を考えた行動を念頭に、利用者が安全に安心して過ごせるサービスを提供する。</p>	<p>① 無駄な業務の見直しを行い、日々の情報収集から他者との交流が促進されるような座席や環境を整え、少しでも多くの利用者と楽しみ関われる時間を作り、ミーティングなどで反省や改善を繰り返すことで、職員間の連携を図りサービスの充実につなげる。</p> <p>② 介護の基礎知識を日常の中で学べるよう、日々の指導やデイ研修等を通じて介護知識を増やせるよう取り組み、一人一人が介護の意味を理解して、理由を考える習慣をつけるとともに、リーダー職員においては、その理由をきちんと説明し、介護福祉士としての視点で適格に指導できるよう、自分の役割を考え業務に当たるように取り組む。</p>
<p>ヘル</p>	<p>① 訪問介護による基本知識に理解不足がある。</p> <p>② 不測の事態が生じた時の対応が不十分である。</p>	<p>① 知識や技術を習得する為、新しい意見を発信し合い常に最新の物にする。</p> <p>② 何事にも余裕を持ち、冷静な判断と対応を行う。</p>	<p>① 訪問介護の持つ専門性や価値、機能などの理解を深める為に自分自身が学習する。又、積極的に意見できる場を設け、最新情報を密にして共有できるようにする。</p> <p>② これまで経験し得た知識や技術を見直し、危機を危機として認識できる対応力をもつ。自分自身の健康管理や感情のコントロールを行い、ゆとりを持った行動をする。</p>
<p>支援</p>	<p>① 重度化が進む事により家族の負担やストレスが増え、介護保険サービスでは補いきれず施設入所に移行するケースが増えている。</p> <p>② 感染症等の問題により一時的に事業所が閉鎖し、必要なサービスが利用できないケースが増えてきた。</p>	<p>① 関係機関やインフォーマルサービスの情報を職員間で共有し、利用者へ寄り添ったサービス提供を考え、自宅での生活が続けられるように支援を行う。</p> <p>② 近隣の事業所の空き情報等を把握し、必要に応じて臨機応変に対応できるようにする。</p>	<p>① 地域ケア会議や他事業所との連携を密にし、職員会議にて情報を共有を図り、在宅生活が続けられるように支援を行っていく。</p> <p>② 地域の在宅サービスの利用状況を職員ミーティング等により情報を共有し、利用者に沿った在宅サービスが提供できるように支援を行っていく。</p>
<p>事務</p>	<p>① 経年劣化や老朽化により、建物や設備等の故障や更新が必要な物が多い。</p> <p>② 業務内容を理解出来ずに、仕事をしている部分がある。</p>	<p>① 計画的に設備や器具等の入替を行い、業務に支障を来さない対策を考える。</p> <p>② 基本的な事をしっかり押さえ、例外にも対応できる力を身に付ける。</p>	<p>① 業務の効率化などを踏まえて予算を組み、必要な物から更新を行っていく。</p> <p>② どんな業務でも意味を理解し、イレギュラーな内容でも考えて対応できるようにする。</p>